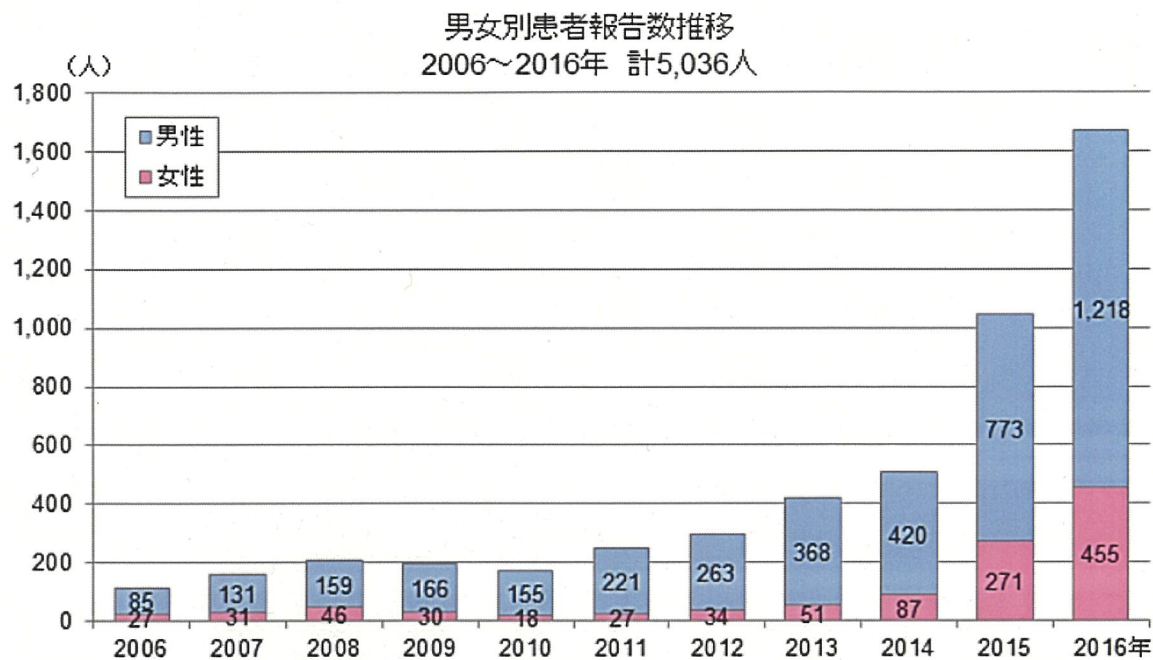


## 東京都の梅毒動向

出典：東京都感染症情報センター

図-1 梅毒の患者報告数推移（2006年～2016年）

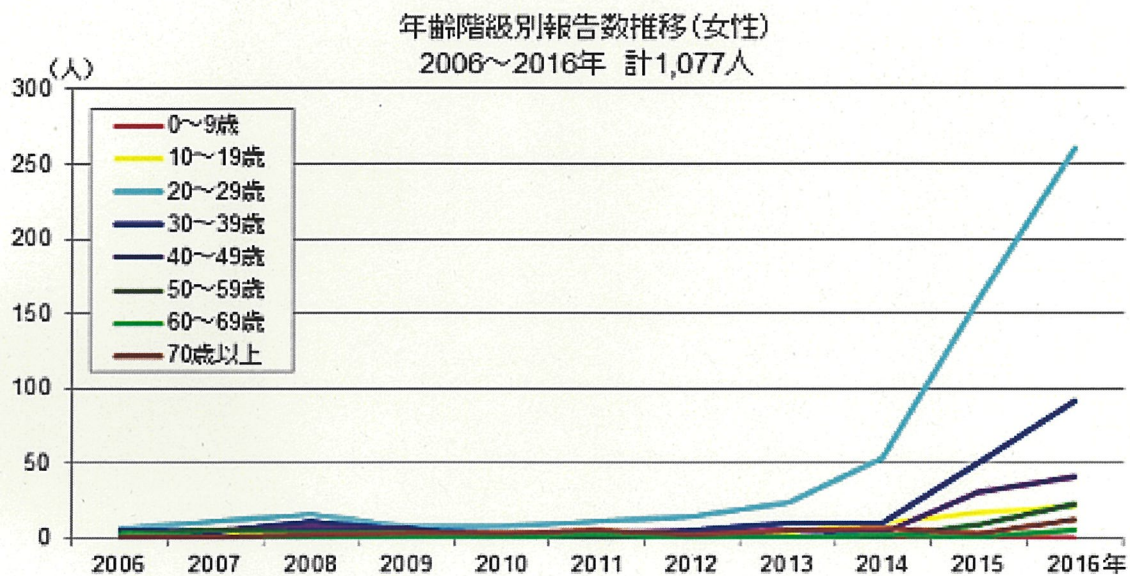
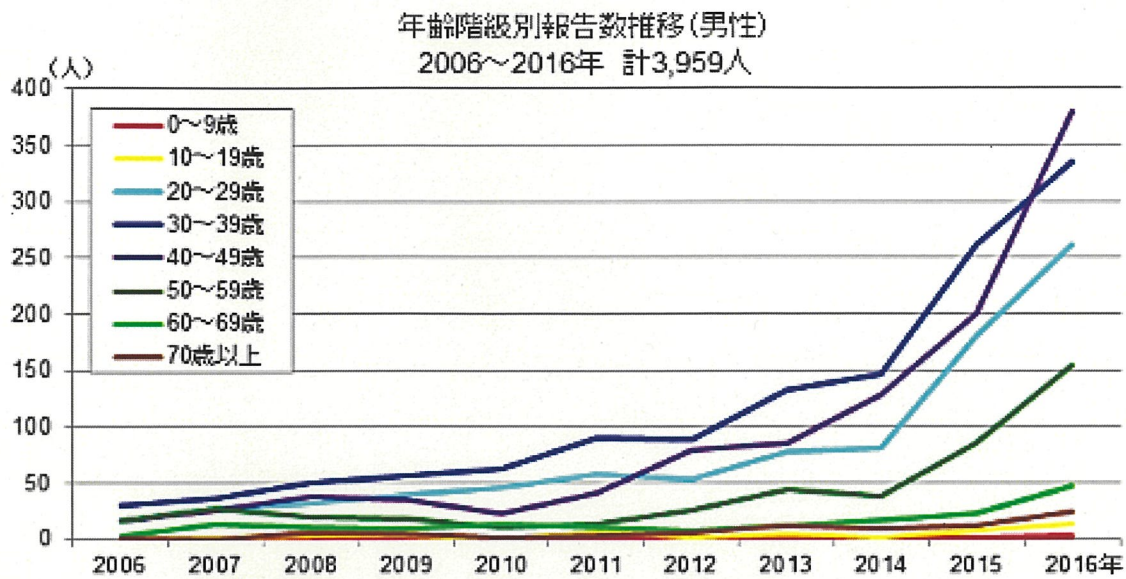


(注1) グラフ内の数字は患者報告数です。(2017年1月11日現在)

(注2) 2006年は第14週(4月3日)以降の報告数です。

患者報告数は2011年から増加に転じており、2016年の患者報告数は1月11日現在1,673人で、感染症法に基づく調査が始まって以来、最も多くなっています。性別は2014年以降、女性の割合が増加しています。

図-2 年齢階級別患者報告数の推移（2006年～2016年）

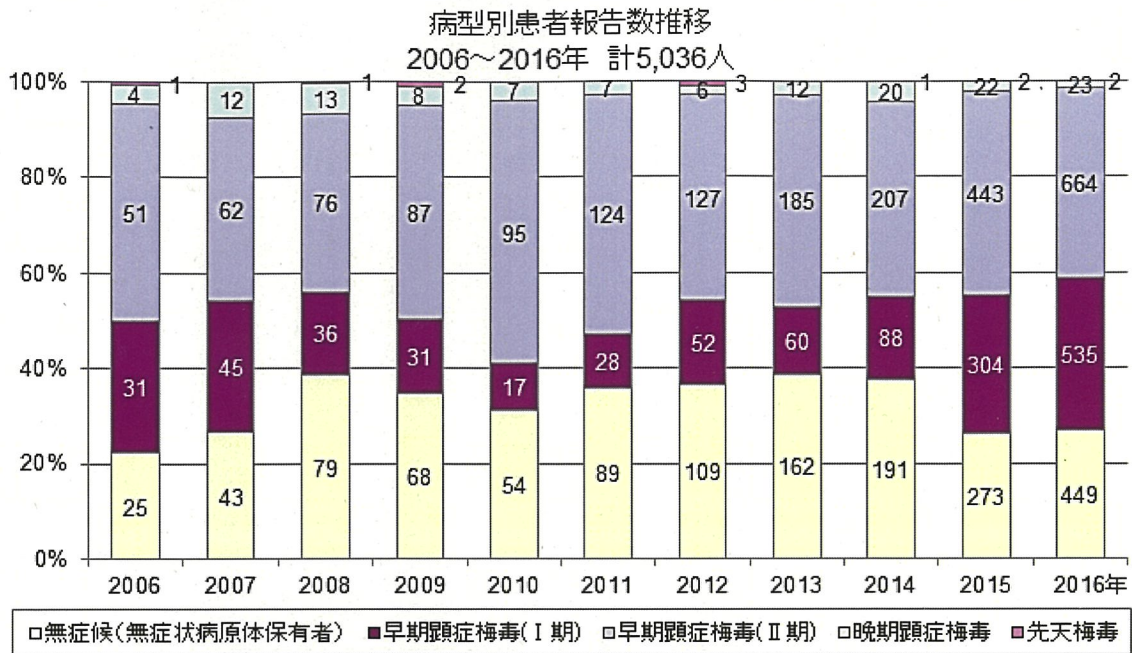


(注1) 2017年1月11日現在の報告数です。

(注2) 2006年は第14週(4月3日)以降の報告数です。

年齢階級別では、男性は20歳代から50歳代、女性は20歳代から40歳代が増加しています。

図-3 病型別患者報告数の推移 (2006年～2016年)

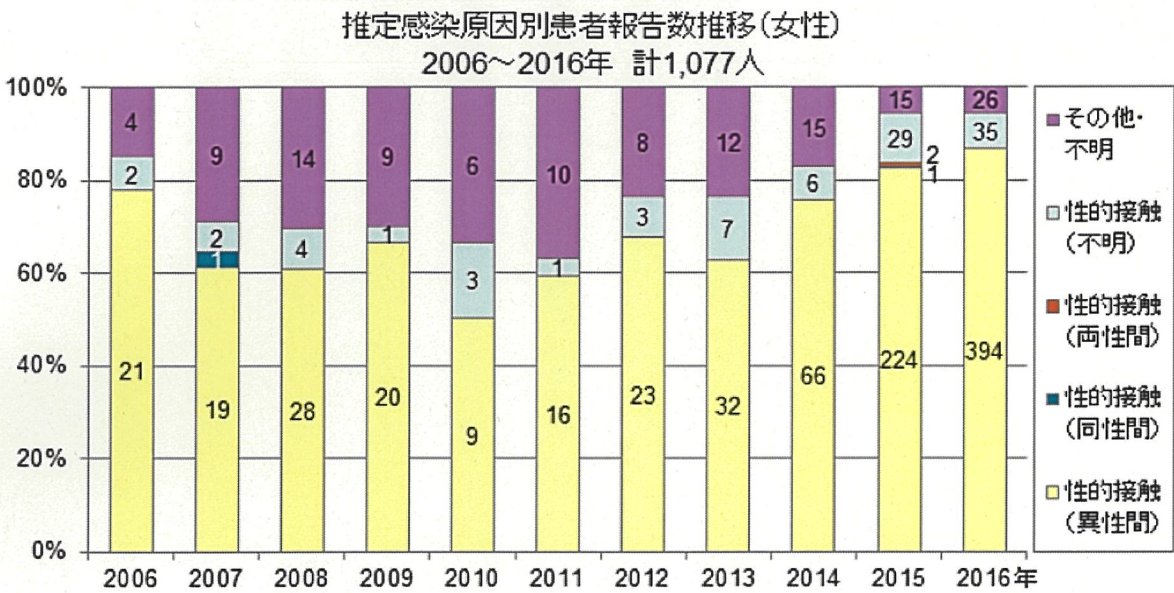
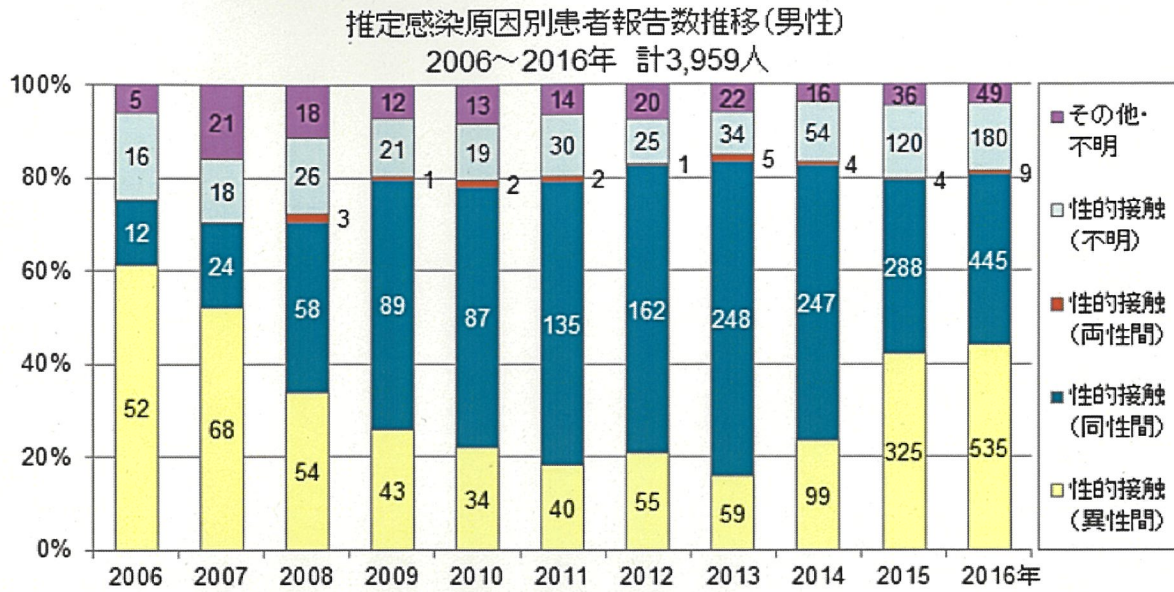


(注1) 2017年1月11日現在の報告数です。

(注2) 2006年は第14週(4月3日)以降の報告数です。

男女ともに無症状病原体保有者の割合が20%から40%で推移しています。

図-4 推定感染経路の推移 (2006年～2016年)



(注1) 2017年1月11日現在の報告数です。

(注2) 2006年は第14週(4月3日)以降の報告数です。

男性は2009年以降、同性間性的接触が50%以上でしたが、2015年以降は異性間性的接触の割合が増加しています。女性は、異性間性的接触が50%以上を占めています。